

令和5年度 年間授業計画

教科：芸術 科目：工芸Ⅰ 単位数：2

対象学年：第1学年

使用教材	教科書：	工芸Ⅰ（日本文教出版）
	補助教材：	なし

教科（芸術）の目標

【知識及び技能】	芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目（工芸Ⅰ）の目標

【知識及び技能】	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きについて考え、思いや願いなどから心豊かに発想し構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】	主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現		鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
		身	社						
単元 オリエンテーション	指導項目に対し、次の教材等を活用する。				次の観点別評価規準に従い評価する。				
知識及び技能	指導事項				知識・技能				
教科書を通じて様々な工芸作品に触れると共に、生活や社会の中の工芸の働きや伝統と文化について理解することができるようにする。	工芸 I についての解説				様々な工芸作品に触れ、生活や社会の中の工芸の働きや伝統と文化を理解できている。				
思考力、判断力、表現力等	教材				思考・判断・表現				
作者の心情や意図、自然との関わり、生活や社会を心豊かにする工芸の見方や感じ方を深めることができるようにする。	教科書			○	工芸に対する見方や感じ方を深めることができる。	○	○	○	2
学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面				主体的に学習に取り組む態度				
主体的に鑑賞活動に取り組むことができるようにする。	アンケート提出				主体的に鑑賞活動に取り組むことができる。				
単元 立方体を分割した建造物モデル	指導項目に対し、次の教材等を活用する。				次の観点別評価規準に従い評価する。				
知識及び技能	指導事項				知識・技能				
紙による造形の特徴および展開図の技法を学んだ上で、360度どの位置から見ても優れた構成美を意識して作るができるようにする。	展開図の基本、制作計画のチェック				発想や構想したことを基に創造的に表すことができる。				
思考力、判断力、表現力等	教材				思考・判断・表現				
社会的な視点に立ち、使用する人や場に応えられる機能と美しさの調和を考え、制作の構想を練ることができるようにする。	ワークシート、作品、振り返りシート		○	○	社会的な視点に立った発想や構想を練ることができる。		○	○	6
学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面				主体的に学習に取り組む態度				
主体的に創造活動に取り組むことができるようにする。	デザイン検討時の検索				主体的に創造活動に取り組むことができる。				
単元 立方体を分割した建造物モデル	指導項目に対し、次の教材等を活用する。				次の観点別評価規準に従い評価する。				
知識及び技能	指導事項				知識・技能				
紙による造形の特徴および展開図の技法を学んだ上で、360度どの位置から見ても優れた構成美を意識した制作を行うことができるようにする。	紙の加工技法、構成の方法について				発想や構想したことを基に創造的に表すことができる。				
思考力、判断力、表現力等	教材				思考・判断・表現				
社会的な視点に立ち、使用する人や場に応えられる機能と美しさの調和を考え、制作の構想を練ることができるようにする。	ワークシート、作品、振り返りシート		○	○	社会的な視点に立った発想や構想を練ることができる。	○		○	8
学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面				主体的に学習に取り組む態度				
主体的に創造・鑑賞活動に取り組むことができるようにする。	記録撮影、講評会での振り返り				主体的に創造・鑑賞活動に取り組むことができる。				
単元 合板のペーパーナイフ	指導項目に対し、次の教材等を活用する。				次の観点別評価規準に従い評価する。				
知識及び技能	指導事項				知識・技能				
木工芸の制作過程を理解し、木材の特性を活かして機能性に優れた実用的なデザインを検討すると共に、美しく仕上げるができるようにする。	木材の合板技法の解説、制作計画のチェック				発想や構想したことを基に創造的に表すことができる。				
思考力、判断力、表現力等	教材				思考・判断・表現				
社会的な視点に立ち、使う人の願いや心情、生活環境などから心豊かな制作の構想を練ることができるようにする。	ワークシート、作品、振り返りシート		○	○	社会的な視点に立った発想や構想を練ることができる。		○	○	6
学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面				主体的に学習に取り組む態度				
主体的に創造・鑑賞活動に取り組むことができるようにする。	デザイン検討時の検索				主体的に創造活動に取り組むことができる。				

	単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	領域		鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数	
				身	社							
2 学 期	単元	合板のペーパーナイフ	指導項目に対し、次の教材等を活用する。				次の観点別評価規準に従い評価する。				12	
	知識及び技能	指導事項	木工芸の制作過程を理解し、木材の特性を活かして機能性に優れた実用的なデザインを検討すると共に、美しく仕上げるができるようにする。									知識・技能
	思考力、判断力、表現力等	教材	ワークシート、作品、振り返りシート									思考・判断・表現
	学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面	主体的に創造・鑑賞活動に取り組むことができるようにする。									主体的に学習に取り組む態度
			記録撮影、講評会での振り返り									主体的に創造・鑑賞活動に取り組むことができる。
単元	ラタンのかご	指導項目に対し、次の教材等を活用する。				次の観点別評価規準に従い評価する。				4		
知識及び技能	指導事項	藤素材の特性を理解し、藤工芸の伝統的な技法を学ぶと共に、色合いの美しさや機能性を重視した持ち手を造形することができるようにする。									知識・技能	
思考力、判断力、表現力等	教材	藤細工の解説、制作計画のチェック									思考・判断・表現	
学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面	身近な生活の視点に立ち、用途や美しさとの調和を考へ、日本の伝統的な表現の良さを生かした発想や構想ができるようにする。									主体的に学習に取り組む態度	
		ワークシート、作品、振り返りシート									主体的に創造活動に取り組むことができる。	
単元	ラタンのかご	指導項目に対し、次の教材等を活用する。				次の観点別評価規準に従い評価する。				10		
知識及び技能	指導事項	藤素材の特性を理解し、藤工芸の伝統的な技法を学ぶと共に、色合いの美しさや機能性を重視した持ち手を造形することができるようにする。									知識・技能	
思考力、判断力、表現力等	教材	藤編み技法、工具の使用法									思考・判断・表現	
学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面	身近な生活の視点に立ち、用途や美しさとの調和を考へ、日本の伝統的な表現の良さを生かした発想や構想ができるようにする。									主体的に学習に取り組む態度	
		ワークシート、作品、振り返りシート									主体的に創造・鑑賞活動に取り組むことができる。	
単元	石彫ペーパーウェイト	指導項目に対し、次の教材等を活用する。				次の観点別評価規準に従い評価する。				4		
知識及び技能	指導事項	作るもの役割を理解し、相応しい形状を想定してデザインすると共に、石材の質感や質感を活かし造形を行うことができるようにする。									知識・技能	
思考力、判断力、表現力等	教材	石彫作品の解説、制作計画のチェック									思考・判断・表現	
学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面	身近な生活の視点に立ち、自然や素材、自己の思いなどから発想や構想ができるようにする。									主体的に学習に取り組む態度	
		ワークシート、作品、振り返りシート									主体的に創造活動に取り組むことができる。	

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数							
			身	社													
3 学 期	単元 石彫ペーパーウェイト	指導項目に対し、次の教材等を活用する。	○		○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○		○	16							
	知識及び技能	指導事項				知識・技能											
	作るものの役割を理解し、相応しい形状を想定してデザインすると共に、石材の触感や質感を活かし造形を行うことができるようにする。	石彫技法、工具の使用方法				発想や構想したことを基に創造的に表すことができる。											
	思考力、判断力、表現力等	教材				思考・判断・表現											
	身近な生活の視点に立ち、自然や素材、自己の思いなどから発想や構想ができるようにする。	ワークシート、作品、振り返りシート				身近な生活の視点に立った発想や構想ができる。											
	学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面				主体的に学習に取り組む態度											
	主体的に創造・鑑賞活動に取り組むことができるようにする。	記録撮影、講評会での振り返り				主体的に創造・鑑賞活動に取り組むことができる。											
	単元 1年間のまとめ	指導項目に対し、次の教材等を活用する。				○						○	次の観点別評価規準に従い評価する。	○	○	○	2
	知識及び技能	指導事項											知識・技能				
	1年間を振り返り、言葉などで考えを整理し、作品について見方や考え方を深めることができるようにする。	1年間の作品の振り返り											1年間を振り返り、言葉などで考えを整理し、作品について見方や考え方を深められている。				
思考力、判断力、表現力等	教材	思考・判断・表現															
各作品の制作過程における工夫や素材の生かし方、技法などについて振り返ることができるようにする。	ワークシート、作品、振り返りシート	各作品について様々な観点で振り返ることができる。															
学びに向かう力、人間性等	一人1台端末の活用場面	主体的に学習に取り組む態度															
主体的に鑑賞活動に取り組むことができるようにする。	作品記録の見直し	主体的に鑑賞活動に取り組むことができる。															
合計																	
70																	